

水稻の7月下旬の巡回調査結果の概要

【東北信】 調査日 7月22日、23日、25日

＜東北信地域の巡回調査ほ場：東信15ほ場、北信14ほ場、計29ほ場＞

1 葉いもち

- (1) 発生地点率は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ高かった。
- (2) 発病株率は、東信地域では平年と比べ高く、北信地域では平年と比べやや高かった。
- (3) 発病度は、東信地域では平年と比べ高く、北信地域ではほぼ平年並であった。

2 紋枯病

- (1) 発生地点率は、東信地域では平年と比べやや低かったが、北信地域では平年と比べ高かった。
- (2) 発病株率は、東信地域では平年と比べやや高く、北信地域では平年と比べ高かった（写真1）。



写真1 紋枯病（上田市）

3 白葉枯病・黄化萎縮病・黄萎病

巡回調査ほ場では、発生は確認されなかった。

4 ばか苗病

- (1) 巡回調査ほ場では、発生はみられなかった。
- (2) ただし、巡回調査対象外の一部ほ場において、発生がみられた。

5 ニカメイガ（芯枯れ）

- (1) 東信地域では、発生地点率及び芯枯れ率は、平年と比べやや低かった。
- (2) 北信地域の巡回調査ほ場では、発生はみられなかった。

6 ウンカ類・ツマグロヨコバイ

(1) ヒメトビウンカ

ア すくい取り調査（ネット20回振：以下同様）による発生地点率（成虫及び幼虫）は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べやや高かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともにほぼ平年並であった。

(2) ツマグロヨコバイ

ア 発生地点率（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともにほぼ平年並であった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともにほぼ平年並であった。

(3) セジロウンカ、トビイロウンカ

ア 発生地点率（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ低かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ少なかった。

7 斑点米カメムシ類

- (1) 発生地点率（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べかなり高かった。
- (2) 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べかなり多かった。
- (3) 発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシであった。

8 その他

(1) イナゴ

ア 発生地点率（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ低かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ少なかった。

(2) クサキリ・ササキリ類

ア 発生地点率（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともに平年と比べやや高かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域、北信地域ともにほぼ平年並であった。

(3) フタオビコヤガ（イネアオムシ）

ア 発生地点率（幼虫）は、東信地域、北信地域ともにほぼ平年並であった。

イ 平均捕獲頭数（幼虫）は、東信地域、北信地域ともにほぼ平年並であった。

【中南信】 調査日 7月22日、23日、24日、25日、28日

＜中南信地域の巡回調査ほ場：南信15ほ場、中信18ほ場、計33ほ場＞

1 葉いもち

(1) 発生地点率は、南信地域で平年と比べやや低く、中信地域で平年並みであった。

(2) 発病株率は、南信地域では平年並、中信地域では平年と比べやや高かった。

(3) 発病度は、南信地域、中信地域ともに平年と比べやや高かった。

2 紋枯病・白葉枯病・黄化萎縮病・黄萎病・ばか苗病

巡回調査ほ場では、発生は確認されなかった。

3 ニカメイガ（芯枯れ）

巡回調査ほ場では、発生は確認されなかった。

4 ウンカ類・ツマグロヨコバイ

(1) ヒメトビウンカ

ア すくい取り調査（ネット20回振：以下同様）による発生地点率（成虫、うち短翅成虫及び幼虫）は、南信地域で平年と比べて高く、中信地域では短翅成虫及び幼虫で高かった。なお、中信地域の成虫については、平年と比べやや高かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫、うち短翅成虫及び幼虫）は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ多かった。

(2) ツマグロヨコバイ

ア 発生地点率は、南信地域の成虫で平年と比べやや低く、南信地域の幼虫、中信地域の成虫及び幼虫で平年と比べ高かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ多かった。

(3) セジロウンカ

ア 成虫について、発生地点率は南信地域で平年と比べやや低く、中信地域で平年並であった。

平均捕獲頭数は、南信地域で平年と比べやや少なく、中信地域で平年と比べ少なかった。

イ 幼虫は捕獲されなかった。

(4) トビイロウンカ

巡回調査ほ場では、発生はみられなかった。

5 斑点米カメムシ類

- (1)発生地点率（成虫及び幼虫）は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ高かった。
- (2)平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ多かった。
- (3)発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ類等であった。

特に、ホソハリカメムシは畦畔及び本田内の雑草の管理状況、出穂の有無に関わらず広くみられた(写真2)。



写真2 ホソハリカメムシ（松本市）

6 その他

(1)イナゴ

ア 発生地点率（成虫及び幼虫）は、南信地域で平年並、中信地域で平年と比べ低かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ少なかった。

(2)クサキリ・ササキリ類

ア 発生地点率（成虫及び幼虫）は、南信地域、中信地域ともに平年に比べやや高かった。

イ 平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、南信地域で平年に比べやや多く、中信地域で多かった。

(3)フタオビコヤガ（イネアオムシ）

ア 発生地点率（幼虫）は、南信地域で平年に比べ低かった。

イ 平均捕獲頭数（幼虫）は、南信地域で平年に比べ少なかった。

ウ 中信地域の巡回調査ほ場では、確認されなかった。